

●4月は母子の健康月間です。

室蘭北ロータリークラブ会報

Rotary



むらんど

室蘭岳



2020~2021年度 国際ロータリーテーマ

ROTARY Opens Opportunities

「ロータリーは機会の扉を開く」

2020~2021年度 RI会長 ホルガー・クナーウ

2021年4月27日(火) 第2353回 例会

第2510地区 日本 (DISTRICT 2510 JAPAN)

●会長:菅原 義男

●幹事:藤井 徹也

●編集:クラブ管理運営委員会

本日のプログラム

卓話「室蘭三病院再編に関する
現状と当院の考え方」

齊藤 俊一 会員
クラブ管理運営委員会

本日献立 洋食弁当(ローストポーク、ミックスフライ、
サーモンサラダ、スパニッシュオムレツ)

次回の予定プログラム

卓話「室蘭北ローターアクトクラブ活動報告と
アクト紹介パンフレットが出来ました」

青少年奉仕委員会
委員長 西野 義人 会員
クラブ管理運営委員会

次回献立 粗食例会(チキンカレー、スープ、マカロニ
サラダ、デザート)

※例会終了後、定例理事会を開催致します。

※次週5/4(火)はクラブ指定休会です。

前回までの例会の報告

第2352回(4月20日) 例会記録

幹事報告

*ポリオプラス募金、1人100円とワンコイン
ニコニコBOXのご協力をお願い致します。
お近くの募金箱に寄付をお願い致します。

委員会報告

1. 菅原正明総務部会長より
例会終了後、創立50周年記念総務部会がご
ざいます。関係者はお集まりください。
2. クラブ広報委員会 菅原委員長より
ロータリーの友4月号の紹介と、ガバナー
月信4月号の紹介
3. 青少年奉仕委員会 西野委員長より
ローターアクトの例会場が変更になりました。

各種記念日



創立記念日 内池 秀光 会員 4月23日



ニコニコBOX

本間信(しばらくです)
藤井徹也(先週の例会時スマホをホテルに忘れ東京
出張へ行き、とても困りました)
猪俣英二(身体がだいぶよくなりました)
赤崎幸三(コロナに負けるな!)
松島茂(今月初めて出席いたしました)

出席報告

会員数	53名	出席者数	36名
出席免除者数	1名	欠席者数	17名
出席義務者数	52名	出席率	67.92%

●例会場 アパホテル室蘭

●事務所 室蘭市中島町2丁目28-6 (アパホテル室蘭)

●電話 0143-45-6569

●URL <http://murokita-rc.org/>

●例会日 毎週火曜日 12:30 P.M.

●FAX 0143-50-6578

●E-mail mur-n.rc@athena.ocn.ne.jp



赤崎 幸三 会員
クラブ管理運営委員会

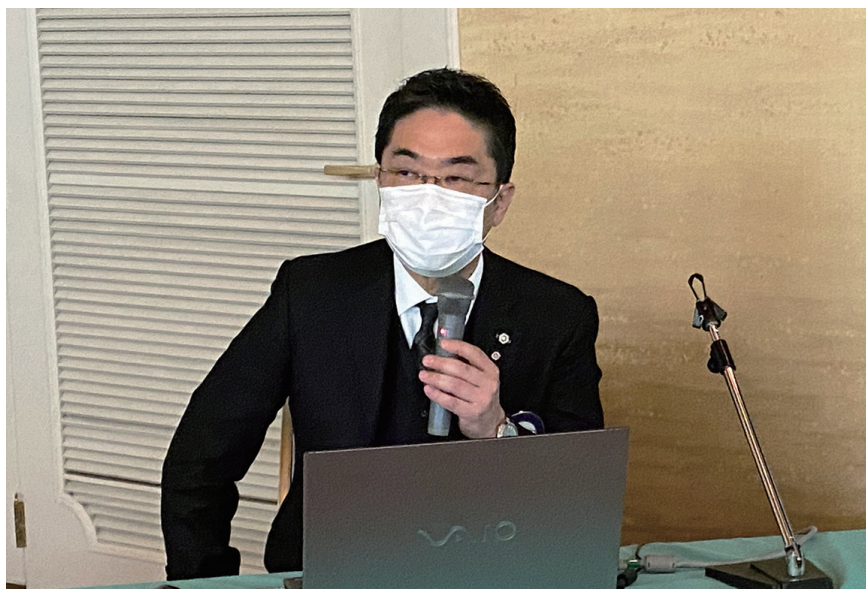
私は、2000年、札幌においてクルミ薬局という調剤薬局を始め、4店舗経営しております。また、2006年より医療法人社団青雲会を経営しております。クルミ薬局は、2020年度、コロナ禍により外来患者が激減、受付処方箋枚数も激減しました。医療機関、介護関係事業所ということで、かなり神経を使い感染対策を行いましたが、業績は売上高、経常利益の減少いたしました。売上減の最大要因である外来処方箋減を補うため、介護施設の処方箋を営業して回り、外来減の分を補いました。従業員の数不足も機械化も遅れ、残業が多く発生していた状況でした。コロナ禍において介護関係は入所には大きく影響が出ず、通所や訪問系のサービスの減少がありました。そんな中、ある日エバーグリーンハイツ室蘭の入り口で検温したところ、体温が37.5℃ありました。もしものことを考え、トンボ帰りで職場に足を踏み入れず札幌の自宅に帰宅しました。その後、コロナ陽性とわかり、10月30日札幌医大に入院いたしました。家族は濃厚接触者として2週間隔離、店舗で働いていた薬剤師の長女は、店舗全体が多忙にもかかわらず、休まざるを得ませんでした。看護師の妻も同様でした。入院3日後、気管挿管し、人工呼吸器を装着し3日間意識不明の状態にありました。その後、意識を取り戻し、痰が落ち着くまで寝られない日々が続き、結局3週間入院、11月20日に退院いたしました。この3週間で、家族、職場、お得意先、ロータリーのみなさん、

様々な方々にご迷惑をお掛けし、とても反省しています。そんな中、従業員のみなが経営者不在中もしっかり現場を支え、やり繰りしてくれていました。とても感謝です。

今後、クルミ薬局は、コロナ禍において、今までのゴールドルート経営では成り立たないことがわかり、在宅・施設を中心に売上が構築し直さなければなりません。そのために機械化、ICT化を進めなければなりません。エバーグリーンハイツ室蘭はコロナ禍の影響が最小限に留まっていますが、業界の求めるところでもありますが、基幹システムの再構築を進めなければと考えています。

また、このようなコロナ禍において、ストレスがとても大きくなる状況が長引いています。我々のグループは、京セラフィロソフィを基にした、自社のフィロソフィを見よう見まねで作成し、日々朝礼や勉強会で学び続けています。これにより、正しい判断ができる人材、心が強い人材を育成し、コロナに負けない集団を作りたいと考えています。

最後に、コロナ禍の状況も手伝い、今はネットワークの高速化、機械化、OA化、DX、業界や業種を問わず、さらに大きくIT化をしなければならない時期です。このコロナ化を乗り切るには、欠かせないことです。是非ロータリーのまだ手付かずの方も是非、積極的にやってみてはと思います。ご清聴ありがとうございました。



G補佐の伝言板



From Assistant of Governor Information vol.08

恒例の「献血例会」無事終了した。宮本一章社会奉仕委員長ご苦労さまでした。

一昨年より場所がモル工駐車場に移り、一定量の献血を確保するため一般市民にも呼び掛けることになった。献血センターが苫小牧に移ってから献血車の要請もそれまでと違って、規定人数以上でなければ応じないという。会員及びその家族、会社関係では不安なので一般市民にも呼び掛ける方法が変わった。

私がかつて血液センターとの打ち合わせした時は、わざわざ職員が会社まで足を運びポスターやパンフレットなど持参し丁寧な対応してくれた。最近の社会奉仕委員長の話を聞くと雲泥の差である。実はそれには理由があって東町に「血液センター」があった時、日鋼記念病院の副院長を退任した当クラブ安田隆義会員が、その後、開業医を終えられた村井幺乙会員が所長に就任され、そんな関係から下にも置かない対応をしてくれた訳である。

献血といえば恥ずかしい逸話がある。40代半ば頃だが走行中カーラジオで、事故がありAB型の血液が不足しているAB型の方は是非とも最寄りの血液センターに行ってもらいと呼び掛けがあった。私は稀少なAB型、その昔献血バスで採血の時「鉄分」不足で出来なかった経験があるので、大丈夫かと心配しつつ東町の血液センターに行った。ラジオを聞いて来たと言うと親切に対応してくれ、事前の採血検査もパスした。

緊張しガラス越しの献血台に左手を出すと、看護婦さんが「軽く手を握って…」やさしく呼びかけた。右手でその手を握ると「いや私の手でなく自分の左手握ってください」はっと気づき私の方が顔を赤らめた。そのことを女房に話したが、以来、献血の話になると、塾の時も今の介護でも、職場で必ず「塾長(社長)の体験談聞いてごらん」とからかわれる。

いつだったか、会員家族のお通夜に行く際村井先生を乗せていった。車中血液センターの話しに及び、その逸話をしたところ先生が真面目な顔で「僕もあるんだよ。似たような話が」、それはこういうことである。何かの疾病で入院した際あちこち検査となり、目の異常が見つかり眼底検査をした。翌日若い看護婦が病室に来て指を立て「村井さん私のこの指を追ってください」そう言われて先生はやさしくつつむようにしてその指を折ってやった。「村井さん冗談やめてください。目で追うんです」。先生は私に「折ってくれっていうもんだから」と例のとぼけたような顔をして言った。いや世の中、上には上がいるものだとつくづく感心させられたものであった。

